METORI50V-II　撮影症例集

【画像提供】どうぶつ眼科VECS　院長 久保 明 先生

M.E.Technica

ぶどう膜炎

ぶどう膜炎は、眼球の中にある「ぶどう膜」（虹彩・毛様体・脈絡膜の総称）と呼ばれる組織を中心に起こる眼の炎症性疾患です。

オプションの点照明器具を用いることで、ぶどう膜炎に特異的な前房フレア*が容易に観察できますので、ぶどう膜炎の確定診断が可能となります。

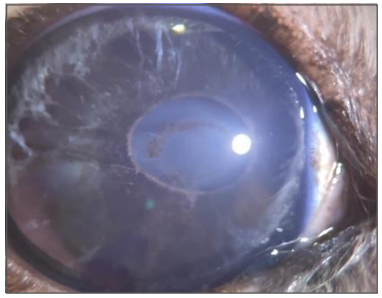


*前房内に入射した光の軌道が連続して見える所見



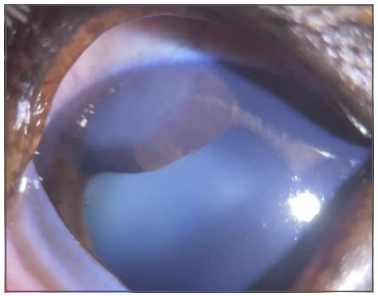
虹彩萎縮（こうさいいしゅく）

虹彩萎縮は、眼の虹彩組織が薄くなり、裂開して散瞳傾向となります。犬では主に加齢性に生じ、老犬で多く認められますが、ぶどう膜炎の後遺症として生じる場合もあります。



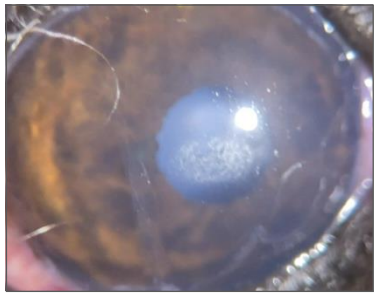
虹彩腫瘍（こうさいしゅよう）

虹彩にできる腫瘍です。良性の場合もありますが、悪性腫瘍であることが多いので、早期評価が重要です。



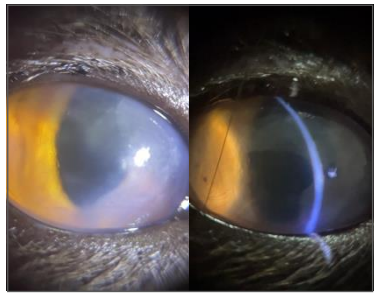
角膜変性症（かくまくへんせいしょう）

角膜変性症は、角膜に脂質やカルシウムが沈着して白く濁る病気です。遺伝的要因による角膜ジストロフィーや高脂血症や高カルシウム血症により生じる場合、食餌性や加齢性に生じる場合があります。



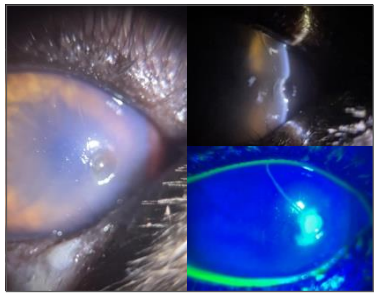
角膜浮腫（かくまくふしゅ）

角膜浮腫は角膜が異常に水分を含み膨らんで白く濁る状態で、角膜の損傷や加齢性、遺伝性の角膜内皮変性によって生じる場合があります。



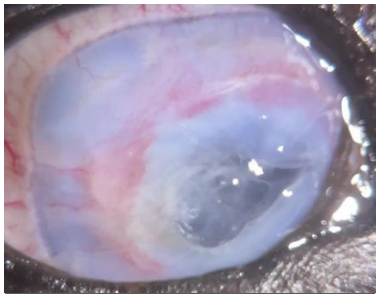
角膜潰瘍（かくまくかいよう）

角膜潰瘍は、角膜の傷や欠損が実質層まで及んでいる状態で、強い痛みを伴うことが多い病気です。引っ掻きなどの外傷やその他の眼科疾患に伴って生じる場合があります。



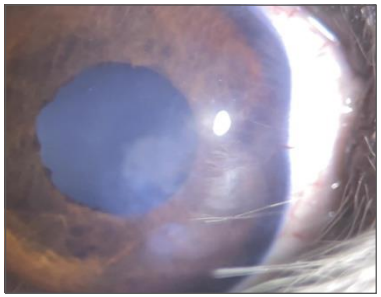
かくまくせんこう
角膜穿孔

角膜穿孔は、角膜の潰瘍がデスメ膜層まで到達し穴が開いた状態です。



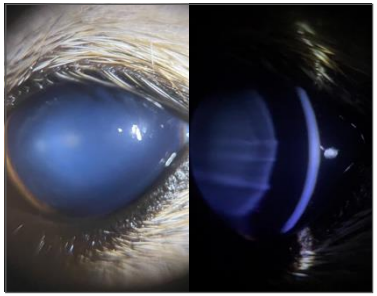
かくまくはんこん
角膜瘢痕

角膜瘢痕は角膜にできた傷や炎症などのダメージが治癒したあとに残る線維性の混濁、いわゆる傷あとです。



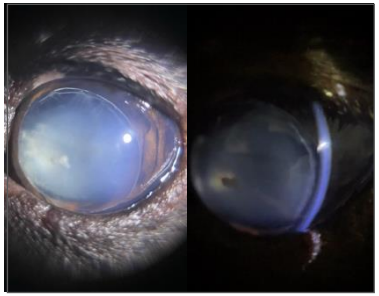
かくこうかしょう
核硬化症

核硬化症は、加齢によって水晶体の中心部が徐々に硬くなり青白く見えるようになる正常な老化変化で、基本的には病気ではなく生理的変化として扱われます。



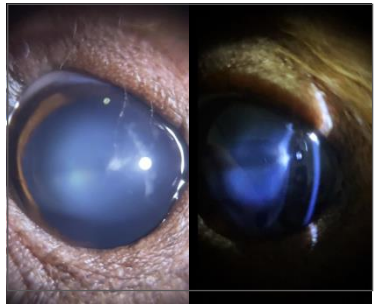
すいしょうたいぜんぽうだっきゅう
水晶体前方脱臼

水晶体前方脱臼は、眼内にある水晶体が本来の位置から外れ、前方（角膜側・前房側）に飛び出してしまう状態です。



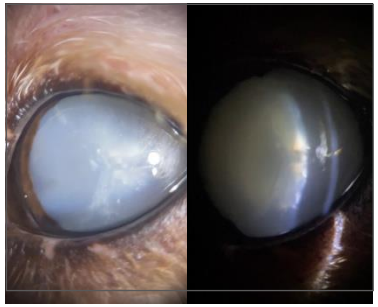
しょはつはくないしょう
白内障（初発白内障）

加齢や犬種による体質、糖尿病などによって眼のレンズ（水晶体）が濁ってしまう病気。濁りの程度によって、初発白内障（1-15％）、未熟白内障（前期未熟16-50％、後期未熟51-99％）、成熟白内障（100％）、過熟白内障（水晶体皮質の溶解が生じる）と呼ばれます。初発白内障では水晶体の混濁は軽度であり、視覚障害も軽度で多くの場合臨床徴候は認められません。



かじゅくはくないしょう
白内障（過熟白内障）

白内障が重度に進行し、水晶体内容が完全に白濁し、さらに水晶体皮質が溶解して細隙灯顕微鏡（スリットランプ）検査では水晶体表面（水晶体前嚢）形状の不整が観察されます。重度な視覚障害が生じており、また合併症である水晶体原性ぶどう膜炎や緑内障の発生に注意が必要です。



M.E.Technica
株式会社 エムイーテクニカ
〒335-0002 埼玉県蕨市塚越1-8-22 TEL 048-420-9604 FAX 048-420-9606